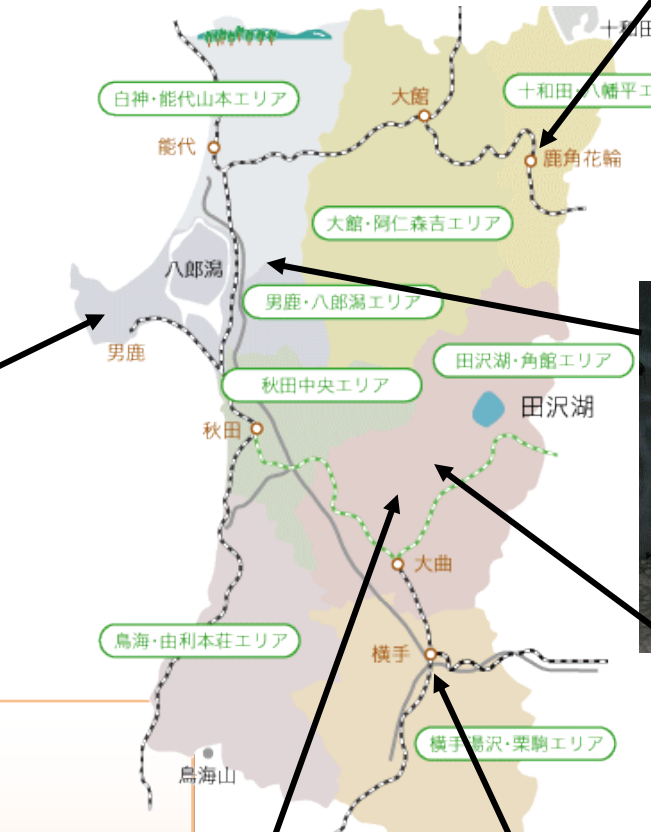


# こめたびだより 2012 秋田の冬祭り特集

いつも、こめたび米を食べてくださり誠にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、東北三大祭といえば、「仙台の七夕」、「青森のねぶた」、そして「秋田の竿灯祭」が有名ですが「集落の数だけ祭がある」といわれるほど、秋田には他にもたくさんのお祭りがあります。新年を迎えた秋田から、今回は冬祭りをご紹介します。（※正確な開催日等は、直接ご確認ください）凍える寒さの中、秋田の祭で汗ばむ熱気をお楽しみください！（写真提供：八郎潟町北嶋雄一、児玉亮）



鳥、馬、黒い顔の人、金色の大仏様?!  
登場人物多敷  
「大日堂舞楽」1月2日（鹿角市）  
夜明けとともに、氏子たちが大日堂に集い、権現舞や駒（こま）舞、鳥遍舞などの11種の舞楽を奉納する神事で2000年前から続くと言われ、未だそのルーツなどは謎が多い。ユネスコ無形文化遺産。

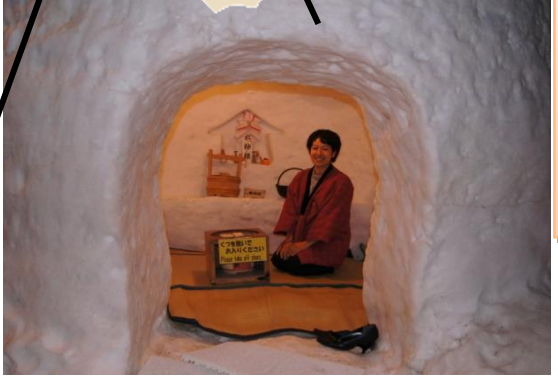


見ているだけで凍えるう〜  
「一日市(ひといち)裸参り」1月1日（八郎潟町）  
1/1午前0時の時報と共に、地元中学生を中心にさらし一枚で雪の中を町中練り歩き、三吉神社に参拝します。今年は、気仙沼の大漁旗を掲げての裸参りに町のみなさんも応援に熱がこもります。それにしても寒そう!!!



佐子はいねが〜〜鬼神「なまはげ」が里に下りてくる!!  
「柴灯(せど)まつり」2月10日〜12日（男鹿市）  
怖い恐いと有名な「なまはげ」、実は「鬼神」なのです。ちなみに角はありません。大晦日の深夜、山から松明を持った「なまはげ」がうなり声をあげながら、木桶と出刃包丁を持ち下山してくる。家の主人は、ごちそうをご用意して、ひたすら謝ってなまはげの機嫌をとったり、おもてなしをし、豊作をお願いする。子供たちは逃げまどい「いい子にします」と誓う。なまはげと主人の掛け合いも面白い。2月に行われる「柴灯まつり」は一般観光客も味わえます。テレビなどで見かける赤と青がおなじみのなまはげですが、実は集落ごとに70種類ものなまはげが生息しています。なまはげの蓑から落ちた稲藁を身につけると、その年無病息災で過ごせるそうです！拾いにくてたんせ〜。

豊作を願い米俵をぶん回す!  
「火振りかまくら」  
2月12、13日（仙北市）  
縄のついた炭俵や米俵に火をつけ、体のまわりを振り回しながら豊作を願う伝統行事。飛び入り参加もできるのでぜひ挑戦してみてください。



「かまくら祭り」2月14、15日（横手市）  
小正月に行う400年以上続く、水神様のお祭りです。子供たちがかまくらの中で、餅や甘酒をふるまってくれますよ。

「一粒のお米と、ひとつひとつのご縁を大切に」  
旧年中は、こめたびのお米を食べて頂き、また、温かいご声援をいただきありがとうございました。心から御礼申し上げます。まだまだ力不足もあり、時にはお叱りも受けながらの一年でしたが、今年も、こめたびは、応援して下さい。お客様に笑顔で、安心して美味しいお米を食べていただけるよう、提携農家と力を合わせていい米づくりにまい進して参ります。  
本年もどうぞ宜しくお願い致します。 2012年1月 こめたび代表 首藤郷



奉納するぞ! させるか! 「けんか梵天」  
「八坂神社梵天奉納」  
1月16日（大仙市）  
日頃、静かな八坂神社が1日だけ、変貌を遂げる。それが1月16日の社日（近年は、16日に近い日曜日）の梵天奉納の時。お宮に奉納させまいと待ち構える側となんとしても奉納してやる側、ふんどし一丁の若い衆が押し合いへし合いで、昔はけが人続出だったとか。それが「けんか梵天」と言われる由縁だそうです。